大宮 まぼろし新聞

Vol.003
2020年6月15日発行
OMIYA LIBRARY

切敷川（鴻沼川）を彩る橋、花々、カモたち

大宮20景

平成18年に市民が選定した「大宮二十景」第三弾は「切敷川（鴻沼川）」です。

切敷川は水源が北区のつばさ小学校あたりにあり、大宮区の西部を南下して中央区へと流れています。川に沿った道が少ないので、川の流れを横から見る風景にはあまり出会えませんが、区内には、風景を引き立たせる30の橋があります。

切敷川の風景は、タンポポなどが咲く花の季節、流れの両側に続く緑が鮮やかに輝く季節など、どれもお勧めです。

また、カモやシラサギといったかわいらしい鳥たちも水遊びにやって来ます。

切敷川は上流（主に大宮市）での呼び名であり、鴻沼川は下流（主に旧与野市・浦和市）で呼んでいました。準用河川になる際に、鴻沼川と名付けられました。

切敷川の近代の歴史は洪水との戦いでした。毎年のように台風や大雨があると、氾濫していたとの事です。

1998年（平成10年）9月の台風5号によって鴻沼川が氾濫して、床上浸水など甚大な被害を受けました。調整池が鴻沼川の改修に取り組まれることとなり、大宮市桜木町に桜木調節池（上部が桜木4丁目南公園）が整備され、2006年（平成18年）度に完成しました。

取材時は春でしたので、この切敷川を上流から下流に向かって、ぶらぶら歩きながらレポートしたいと思います。

A：どうして小学校の下が源流なの？

B：台地の際だと水が湧くことがあるんだ。高いところに降った雨が土に浸み込んで、粘土みたいな水を通しにくい層の上を流れると、低くなったところから水が湧いてくることがあるんだ。ここの小学校のちょっと北にもう一ヵ所源流があって、北に向かってながれているんだ。逆川って呼ぶんだけど、途中で鴨川に合流するんだ。

A：へぇー。じゃあ、この辺りには井戸があるのかな？

B：古い家には井戸があると思うよ。うちの実家はもうちょっと南だけど昔は井戸があったよ。

A：あっ、埼京線だ。

B：そうだね。新木場行きかな？

A：切敷川には、いくつ橋がかかっているのかな？

B：横切る道にはだいたい橋があるから、30ヶ所あるね。

A：ここはなに？ 川の半分がコンクリートブロックになっているけど。

B：切敷川の水が多くなった時に地下調整池に入るんだ。ここから上流にある施設からも地下水路を通って、調整池に入るんだ。この調整池と下流の浦和にある調整池で、切敷川の溢水を防いでいるんだよ。去年の台風19号の時も活躍したって聞いているよ。

A：ここの地下貯水池の上は、公園になっているんだね。

B：そうだね。とってもいい使い方だと思うよ。

この辺りまでが大宮区です。この先は、中央区・浦和区・桜区を通って、鴨川に合流します。

周りの見た目は、ちょっと都会的な川のようですが、シラサギや鴨もいて、都会の中にちょっと自然を感じる、切敷川でした。

最後に、もういちど川辺のサクラの写真を…。

参考資料
「さいたま市洪水ハザードマップ（鴨川・鴻沼川）」（S517・4サイ）
「さいたま市地図情報」（https://www.sonicweb-asp.jp/saitama_g/map?theme=th_56）
「鴻沼点描」S517・4　コウ
「大宮の郷土史　第22・23合併号」S213・4　オオ22・23

ゆかりの文学コーナー

『大木 実』（詩人・1913～1996）

大木実は1913（大正2）年に東京市本所区（現・東京都墨田区）に生まれました。少年時代から北原白秋、西条八十の童謡に親しみ、電気工夫だった父に勧められ神田の電気学校（現・東京電機大学）に入学しますが、勉強に興味が持てずよく神田の古本屋に足を運んでいたそうです。在学中、室生犀星の『愛の詩集』と出会い感銘を受けた大木は詩を作るようになり、文芸の道に憧れ学校を中退。1939（昭和14）年、文通をしていた小説家・尾崎一雄の伝手で砂子屋書房に勤めながら、第一詩集『場末の子』を刊行しました。

1941（昭和16）年、海軍機関兵曹として軍に徴用され、兵役後は大宮市上小町区（現・さいたま市大宮区上小町）へ転居し、大宮市役所に就職。定年まで勤務し、その後も詩人として活動を続けました。日常生活を題材に人生の哀歓を歌った詩を作り、1991（平成3）年に『柴の折戸』で現代詩人賞を受賞しました。75年の生涯で詩集16冊、自身の古稀のときに全集1冊を刊行しています。

参考資料
『詩歌人名事典　新訂第2版』日外アソシエーツ／2002
『大木実全詩集』大木実／著　潮流出版／1984
『きみが好きだよ』大木実／著　田中和雄／編　童話社／2008
『日本大百科全書 3』小学館／1985

大西民子の一首

円柱は何れも太く妹を
しばしわれの視野から奪ふ

『雲の地図』より

関西出張の合間に奈良の唐招提寺（とうしょうだいじ）に立ち寄った民子は、回廊の太い円柱に、妹を見失うような感覚がしたと詠んでいます。予感は本当のものとなり、この歌が発表された三ヶ月後、妹・佐代子が四十歳で急死してしまいました。

文学資料コーナーNEWS

★図書館俳句ポストはじめました。

文学資料コーナーにある俳句ポストに自作を投稿すると、応募作品のなかから優秀作品が雑誌「現代俳句」に掲載されます。あなたの一句をお待ちしております。

★文学資料コーナー　企画展示

◆一周年記念展示
「与謝野晶子と大西民子 ～民子が憧れた歌人・与謝野晶子～」
期間　6月1日(月)～9月6日(日)

◆次回の企画展「民子の日常」
期間　9月7日(月)～　月6日(金)

おおみや読書バトン

第2回 テーマ『完成』

この原稿を書いている2020年5月の下旬、首都圏での緊急事態宣言は未だ解除されておらず、我々は相変わらず猛威を振るい続ける新型コロナウイルスの脅威におびえる生活を余儀なくされています。子供の頃に観たSF映画の中に、未来の地球では大気が酷く汚染されていて、人々はガスマスクを装着しないと外を歩けないといったシーンが出てきましたが、まさかそれに近い未来が本当にやって来るなんてと、いまだに現実感が無く夢の中の出来事のような気がします。ただ普通に人々が向かい会って会話して食事して…、そんな平凡な日常ははたして戻って来てくれるのでしょうか。一日でも早くコロナウイルスのワクチンや治療薬が完成してくれることを切に願うばかりです。

そんなコロナウイルスよりもずっと前から世界中で完成を渇望されているのが、癌の治療法なのではないでしょうか。1981年以来日本人の死因の1位に君臨し続け、なんと70歳を過ぎると実に4人に1人は癌にかかる計算になるそうです。昔に比べ医学も発展し、抗癌剤や化学療法などもだいぶ進歩したとの話も聞きますが、いまだに決定的な治療法は確立されていません。もしどんな癌をも治してしまう治療薬が発明されたら、きっとノーベル賞どころの騒ぎでは収まらないことでしょう。

今回ご紹介する小説「がん消滅の罠 完全寛解の謎」はそんな癌と戦うお医者さんのお話です。主人公の医師夏目典明が余命宣告をした患者たちはなぜかその後ことごとく回復していき、体中に転移していたはずの癌がきれいさっぱりなくなってしまう。不審に思った夏目たちが調べていくうちに、癌が消えた患者たちはある同じ病院に通院していたことが発覚する。はたしてこの病院では、本当に癌を完全に治すことができるのか?…といったミステリ仕立ての物語です。この作品は第15回『このミステリーがすごい!』大賞を受賞した小説で、テレビドラマ化もされています。読者を飽きさせないスリリングなお話の展開もさることながら、作者の岩木一麻氏は実際に国立がん研究センターに勤務されていたらしく、医療の現場の仕組みや専門的な話題も非常にわかりやすく書かれていて、私のような素人でも最後までスラスラと作品に没頭することができました。医療ミステリはとっつきにくくて…と敬遠されている方も楽しんでいただける一冊だと思いますので、ぜひ「おうち時間」のおともにいかがでしょうか。

次号のまゆっこ新聞が刊行される頃には平和な世の中が戻って来てくれているといいですね。そんな願いも込めて、次回のこのリレーエッセイのテーマは「ハッピー」で行きましょう。では次の方、よろしくお願いします。

紹介した本
『がん消滅の罠 完全寛解の謎』岩木一麻著
宝島社　2017年
紹介者：大宮図書館スタッフ・S

おべんと見せて!!

スタッフ ~~利用者さん~~のお弁当を見せてもらいました

二ヵ月間の休館中も仕事をしていたスタッフ。今回は番外編として、お客さんのいない中も働くOさんのお弁当をピックアップしました！

ブロッコリー大好きOさん。豆の煮物もご自身で作ってるんだとか。彩り野菜のパプリカがポイントです。豆や緑黄色野菜などの野菜中心で、油や塩分も控えめ。また、調理で使うのは電子レンジと炊飯器だけ。

名付けて**「おいしくて・健康的で・面倒くさくない弁当！」**

視聴覚資料のご紹介

ブラスの祭典BEST

図書館にあるCDを借りる時、普段自分が聴かないジャンルも手に取りやすいという魅力があるのではないでしょうか。借りてみて「好きな曲が増えた！」とか「今回は自分の好みではなかったな」など楽しんで頂きたいものです。

今回ご紹介するCDは、国内外で活躍されている指揮者・佐渡裕氏と、日本の吹奏楽オーケストラ「シエナ・ウインド・オーケストラ」による演奏が収録されている『ブラスの祭典BEST』です。現在までの「ブラスの祭典」シリーズの中から選曲された2枚組のベスト盤となっています。どの曲も魅力的ですが、中でも今回おすすめする曲は、DISC1のラストに収録されている東海林修氏作曲の「ディスコ・キッド」です。この曲は、1977年の全日本吹奏楽コンクールの課題曲で、今でも人気の曲であり、ご存知の方も多いかと思います。

金管楽器の音色は、聴いていてとても元気が出るし、心が躍ります。楽器のソロパートもかっこいい！是非、手に取って聴いて頂きたいオススメの1曲です。

わたしの好きなえほん

私の好きな絵本は中川李枝子さん作・大村百合子さん絵の『ぐりとぐら』です。

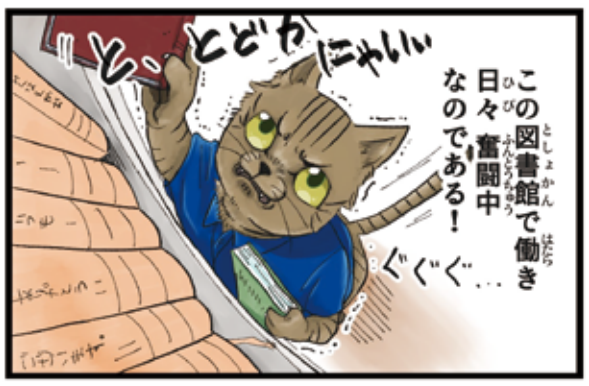
初めて『ぐりとぐら』を読んだのは、子どものころ通っていたピアノ教室でのことです。自分のレッスン時間までの間に、その場にあった『ぐりとぐら』をふと読み、みるみるはまってしまったのを覚えています。特に気に入ったのは最後にぐりとぐらが大きな卵の殻で作った車に乗るシーンです。それからは週一度のピアノ教室に『ぐりとぐら』を読むという楽しみが加わりました。

もう一つの思い出は司書講習のことです。読み聞かせの実習で、受講生の一人が『ぐりとぐら』を読みました。読み聞かせは絵本を動かさないのが鉄則ですが、その方は読んでいるうちに楽しくなってしまったのでしょう。「ぐり、ぐら、ぐり、ぐら」のリズムに合わせて絵本を左右に揺らし始めました。同じ受講生として「まずいなあ」と心配になり、片や講師の先生は渋い表情をしていたのを記憶していますが、心から楽しんで読んでいることは伝わってきました。

そんな私にとって思い出深い『ぐりとぐら』。お子さまはもちろん、大人の方もぜひもう一度手に取ってみてはいかがですか？

ぐりとぐら
中川 李枝子 作 / 大村 百合子 絵
福音館書店

わがはい 吾輩は……、



あの本の中の名言

『ハリネズミの願い』
トーン・テヘレン 著
長山さき 訳
新潮社

この本を読もうと思ったのは書店で帯をみたからである。「突然泣きたくなる」「途方もない妄想力」「取り越し苦労の天才」などポジティブではない言葉が並ぶのをみて興味が湧いた。独りぼっちのハリネズミ君が、自宅に他の動物たちを自分の家に招待するかを徹底的に迷う話である。ハリネズミ君はこんな手紙を最初に書く。

「ぼくの家にあそびに来るよう、キミたちを招待します。でも、だれもこなくてもだいじょうぶです。」

断られたらどうしようとか、この動物にはどういう風に接した方がいいのかとか。実際に誘ってみなきゃわからないと、人間だったら言われてしまうことでハリネズミ君は悩む。断られて自分は傷つきたくない、来てくれたとして相手も傷つけたくない。けど自信がない。本当に自分は家に来て欲しいと考えているのだろうか。やっぱりやめた方が良いのだろうか。悩んだ末に書いたのが最初の手紙だったのだろう。話はここから始まり、ハリネズミ君の悩みが続く。そして、結末は感動的だ。最初の手紙のこの言葉は、自分が傷つきたくない人ほど共感しやすく、そんな人たちに寄り添っている。

大宮図書館 歴史部

泣ける古典ドラマ「忠臣蔵」

愚弄されても「大事を前に争いは禁物」と屈辱に耐える「与五郎の詫び証文」、討ち入りを隠して暇乞いをする「南部坂雪の別れ」など胸にぐっとくる話が満載の「忠臣蔵」。読む・観るうちに自分もすっかり浪士の一人、本懐を遂げた時は得も言われぬ高揚感に満ち満ちます。あー。

私の推す「泣かせる脇役」は、吉良邸の隣の旗本・土屋主税。討ち入りが始まると、土屋は家来に命じます。

「吉良の者が逃れてきたら追い返せ。高張提灯を用意いたせえ！」

まるでゴール裏でバアッと上がる大宮アルディージャの旗のように、高張提灯が塀越しにバンバンと掲げられるや、吉良邸の暗い庭が昼間のような明るさ！うーん、なんとも粋じゃありませんか！かたじけない、土屋殿（涙）

コロナが収まったら高輪の泉岳寺で浪士のお墓に線香を手向けたい。前回は有名な浪士に多めにお供えしていたら最後は三人で一本、になったから、今度は平等に配らなきゃ。可哀想だから両国の吉良邸跡にも行ってあげよう。(討ち取った首を洗ったという井戸がありますよ。)

【参考資料】
中島丈博 著「元禄繚乱　上・中・下」(1998 / 99)
大佛次郎 著「赤穂浪士　上・下」(1998)